

現代社会シラバス

「現代社会」シラバス	担当者	
	単位数	2単位
	学科・学年・学級	3年5～8組(7・8組は理系選択者)

1. 学習の到達目標等

学習の到達目標	<p>1. 現代社会における様々な課題の学習を通じ、基礎的な知識を習得することにより、広い視野に立って現代社会と人間についての理解を深める。</p> <p>2. 倫理面や文化面・政治面など、多角的な観点から問題に焦点をあてることにより、現代社会と自己との関わりについての関心を高め、自らの在り方生き方を主体的に判断し活動する。</p>
使用教科書	「高等学校 新現代社会」(第一学習社)
副教材	「最新新版現代社会資料集 2017」(第一学習社)

2. 学習計画及び評価方法等

(1) 学習計画等

学期	月	学習項目	学習内容(ねらい)および評価の観点	評価方法
1	4 5 月	第1編 私たちの生きる社会 ①地球環境問題	<ul style="list-style-type: none"> 地球環境問題について、よりよい社会を築くために解決しなければならない問題として考える。 地球環境問題が国際的な問題となっていることや、その解決に向けての取り組みについて理解する。 熱帯林伐採の考察を通して、幸福、正義、公正など社会のあり方を考察する基盤を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 提出課題 小テスト ノート提出 定期考査
		②資源・エネルギー問題	<ul style="list-style-type: none"> 資源の有限性について理解を深め、石油に代わる資源には何があるか、資源を有効に利用するためにどのようにしなければならないかを考える。 エネルギー政策を見直すとともに、新エネルギーの現状と将来について考え、毎日の生活を見直し、省エネルギーに努めることが重要であることを理解する。 資源・エネルギー問題への考察を通して、幸福、正義、公正など社会のあり方を考察する基盤を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 提出課題 小テスト ノート提出 定期考査
		③科学技術の発達と生命倫理	<ul style="list-style-type: none"> 科学技術の発達は、社会や生活をどのように変えてきたかを考え、理解する。 医療の発達により、人類がはじめて直面する問題が生じていることを、具体的事例をあげて考察する。 生命倫理をめぐる問題について、どのようなものがあるかを理解し、それらについての知識を身につける。 生命にかかわる課題の考察を通して、幸福、正義、公正など社会のあり方を考察する基盤を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 提出課題 小テスト ノート提出 定期考査

	<p>④高度情報社会と私たちの生活</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・高度情報社会とは何かを理解し、情報化の進展が社会に及ぼす影響について考える。 ・情報の活用や情報にかかわる諸課題を考察させることを通して、幸福、正義、公正など社会のあり方を考察する基盤を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
	<p>第2編 現代社会と人間としてのあり方生き方 第1章 現代に生きる青年 ①青年期の意義と自己形成の課題 ②現代社会における青年の生き方 ③伝統や文化と私たちの生活</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・人生の中で青年期はどのような意味をもつのか、青年期の心理の特徴について理解し、一人前の人間として自立するためには何をしたらよいかを考える。 ・青年期の意義や青年期の心理について、それらがどのようなものかを理解し、自分自身の問題として考える。 ・社会への参加について、具体的事例をあげて多角的に考察する。 ・なぜ生きがいを求めようとするのか、人生における職業の意味、社会活動の意義について考える。 ・伝統や文化と自らの行動様式や考え方との関係について考察する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
1	<p>第2章 個人の尊重と法の支配 ①民主政治における個人と国家 ②基本的人権と法の支配 ③世界のおもな政治体制</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・私たちの生活と政治や国家のかかわりについて関心を高め、国家はどのような考え方を背景につくられたのかを理解する。 ・基本的人権が保障されるにいたった経緯を、さまざまな情報手段で資料を収集し、具体的事例をあげて考察し、理解する。 ・世界のおもな政治体制について、真の民主政治の実現と関連させて考察する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
	<p>第3章 現代の民主政治と政治参加の意義 ①日本国憲法の基本原理 ②平和主義と安全保障 ③基本的人権の保障と新しい人権</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日本国憲法の成立過程や明治憲法との比較、天皇の地位の変化、日本国憲法の三つの基本原理について主体的に理解する。 ・日本国憲法の平和主義の特色を理解するとともに、平和主義と日本の安全保障について、さまざまな情報手段を活用し、レポートをまとめる。 ・日本国憲法の平和主義の特色と自衛隊、日本の安全保障については、さまざまな立場からの意見があることを理解する。 ・自由権の意味や、社会権が私たちの生活をどのように変えたのか、新しい人権とは何かをさまざまな立場にたって考察する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
	<p>④国民主権と議会制民主主義 ⑤内閣と行政の民主化 ⑥裁判所と人権保障</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・国会の地位と構成、権限について理解する。 ・国会の地位と構成について、インターネットなどの情報手段を活用して資料を収集し、レポートをまとめる。 ・議院内閣制のしくみ、内閣総理大臣の権限、行政の民主化について理解する。 ・議院内閣制のしくみ、裁判所の役割や裁判制度について、インターネットなどの情報手段を活用して資料を収集し、レポートをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
7			

学期	月	学習項目	学習内容(ねらい)および評価の観点	評価方法
2	9	⑦地方自治と住民の福祉 ⑧世論形成と政治参加	<ul style="list-style-type: none"> 地方自治に住民はどのような権利をもっているか、また、地方自治のもつ課題について、自分自身の問題として具体的に考察する。 地方自治に住民はどのような権利をもっているか、地方自治のもつ課題について、自分自身の問題として理解し、その知識を身につけている。 政党の役割、選挙のしくみ、世論の形成について、さまざまな情報手段を活用して、調査する。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 提出課題 小テスト ノート提出 定期考査
	9	第4章 国際政治の動向と日本の役割 ①国家主権と国際法 ②国際連合の役割 ③今日の国際社会 ④核兵器の廃絶と国際平和 ⑤国境と領土問題	<ul style="list-style-type: none"> 国際法の意義と役割について、多面的に考察し、理解する。 勢力均衡と集団安全保障体制の違いについて考え、国連の役割と課題について理解する。 国際連合の役割と課題について、インターネットなどの情報手段を用いて調査し、それらをもとにレポートをまとめる。 第二次世界大戦後の国際社会と冷戦終結前後の国際社会の状況について、年表を使って整理し、理解する。 核兵器を廃絶するには何が必要かを考え、核兵器の開発・拡散の状況、廃絶するためのさまざまな取り組みについて、具体的事例をあげて多角的に考察する。 核兵器の問題についての知識を身につけ、それを廃絶するために何をしなければならないかを理解する。 国境と領土問題や日本の領土問題について、教科書の写真・地図を使用して理解する。 国境と領土問題、特に日本の領土問題についての知識を身につける。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 提出課題 小テスト ノート提出 定期考査
	10	⑥地域紛争と人種・民族問題 ⑦外交政策と日本の役割	<ul style="list-style-type: none"> なぜ人種や民族の違いにより争うのかを主体的に考え、人種・民族紛争の実態、難民問題について理解する。 人種・民族紛争の実態、難民問題に関する資料について、さまざまな情報手段を用いて収集し、それらをもとに整理・発表する。 国際社会における日本の役割や、国際社会の一員として私たちは何をすべきかを考える。 国際社会の一員として何をすべきかを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 提出課題 小テスト ノート提出 定期考査
	10	第5章 現代の経済社会と私たちの生活 ①経済社会と経済体制 ②現代の企業 ③市場経済のしくみ ④経済成長と景気変動	<ul style="list-style-type: none"> 経済の基本的なしくみと資本主義経済、社会主義経済の特徴を理解する。 企業・家計・政府はどのような活動をしているか、企業の社会的責任について理解する。 企業がどのような活動をしているのか、株式会社の特徴について調査し、まとめる。 市場経済のしくみについて理解する。 価格機構のはたらきについて理解する。 国民所得について、教科書に掲載されている図版を適切に使用し、理解する。 景気変動について理解する。 経済成長は生活にどのような変化を与えるかを、具体的事例をあげて考察する。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 発問評価 提出課題 小テスト ノート提出 定期考査

1 1	<p>⑤政府の経済的役割と租税の意義</p> <p>⑥金融機関のはたらき</p> <p>⑦戦後の日本経済の動き</p> <p>⑧産業構造の変化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・財政政策の意義、日本の財政の課題を理解し、財政のしくみ、租税の意義と課題について、具体的に事例をあげて考察し、主体的に考える。 ・資金の流れ、金融機関の役割、日本銀行の役割について理解する。 ・日本の高度経済成長やバブル経済の要因について、理解する。 ・平成不況に対する政策を調査し、日本経済の課題について多角的に考察する。 ・技術革新の進展による生活の変化、産業構造の変化、経済のサービス化・ソフト化について、身近な問題と関連させて考察する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
1 2	<p>⑨雇用と労働問題</p> <p>⑩公害の防止と環境保全</p> <p>⑪消費者保護と契約</p> <p>⑫社会保障と国民福祉</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・労働者が憲法や法律で守られている理由を考え、雇用事情の変化と労働条件や労働環境を理解する。 ・雇用事情の変化とさまざまな労働問題について、具体的事例をあげて多角的に考察する。 ・日本の公害問題について理解し、公害問題と公害に対する国や企業の対応、公害を防止し環境を保全するための方策について考える。 ・消費者問題について、自分自身の問題として具体的事例をあげて考察する。 ・消費者主権とは何かについて考え、企業が消費者に負っている責任、消費者を保護するために国はどのような対策をとっているのかを理解する。 ・社会保障の意義を理解し、現代の社会保障の課題について考察する。 ・消費者問題、日本の社会保障について、さまざまな情報手段を活用して情報を収集し、調査した内容をまとめて発表したり、レポートを作成したりするなど、適切に表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査

学期 学年	月	学習項目	学習内容(ねらい)および評価の観点	評価方法
3	1	第6章 国際経済の動向と日本の役割 ①国際経済のしくみと貿易の拡大 ②国際経済の動向 ③発展途上国の経済と南北問題 ④国際協調と日本の役割	<ul style="list-style-type: none"> ・貿易の意義, 円高・円安の生じる理由, 経済のグローバル化について考える。 ・円高・円安のしくみについて, 身近な事例をもとにレポートを作成するなど, 適切に表現する。 ・日本の貿易やアメリカ, アジアなどの貿易について理解し, 貿易の拡大とそれにもなう貿易摩擦について, 具体的事例をあげて考察する。 ・地域的経済統合をはかる動きが見られることを理解しそれによって何がもたらせるかを理解する。 ・南北問題の発生した原因について考え, 発展途上国のかかえている問題について理解する。 ・発展途上国の人口問題や食料問題について, 情報を収集し, 調査した内容をまとめて発表したり, レポートを作成したりするなど, 適切に表現する。 ・国際協力のあり方, 国際経済の中での日本の役割について自分自身の問題として考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出 ・定期考査
3	2	第7章 現代に生きる倫理 ①豊かな人生を求めて ②日本の伝統的なものの考え方 ③西洋の自然観と人間観 ④私たちの課題	<ul style="list-style-type: none"> ・哲学や宗教の役割を理解するとともに, 人生を豊かに生きるとはどのようなことなのかを多角的に考察する。 ・日本の伝統意識を理解し, 生活の中での仏教や儒教, 西洋思想の影響について, 具体的事例をあげて考察する。 ・人間の尊厳や科学的なものの考え方, 民主的社会を樹立するために必要な考え方の理解を深めるため, 図版や原典資料を適切に使用する。 ・平等な社会の実現には, 偏見を取りのぞき, 主体的に努力することが求められていることを理解する。 ・差別を生み出す偏見について考え, それを克服して, ともに生きるために私たちは何をすべきか, 自分自身の問題として考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・提出課題 ・小テスト ・ノート提出

(2) 評価の方法

① 評価の観点

関心・意欲・態度	思考・判断	表現・処理	知識・理解
現代社会の学習活動を通して、社会と自己とのかかわりに関心を持ち、学習活動や授業に真剣に取り組み、自ら積極的に学ぶ姿勢を養う。	社会問題をさまざまな視点から捉え、主体的に分析することによって、広い視野に立った客観的で公正な判断ができる洞察力の基礎を養う。	教科書や資料集等から適切な情報を読みとり、ノートでの整理や教材への記述、授業での発言などを通して、その理解を深めることができる。	社会問題を客観的かつ多角的に分析し、公正な判断力を養うために必要な、基礎的基本的な知識の定着を徹底する。
評価方法	評価方法	評価方法	評価方法
出席状況や授業態度、課題への取組と提出、ノート・プリントの提出などで評価	授業での発言やその考え方、ノート・プリントの内容や定期考査などで評価	授業での発言や板書、定期考査、課題やノート・プリント、発表学習などで評価	授業での発言や定期考査、課題やノート・プリント、発表学習などで評価

上記の評価の観点を踏まえ、次のような配分で総合評価を行う。

知識・理解、表現・処理・思考・判断	関心・意欲・態度	知識・理解、表現・処理・思考・判断
定期テスト	出席状況、授業態度、取組意欲ノート・宿題等の提出	発表、ノートや提出物の内容
70～80%	10～30%	20～10%

4. 学習方法

① 授業における学習方法

- a 予習として、授業を行う単元の範囲を読んでおくことが望ましい。
- b 授業においては、教師の話を聞くだけでなく、疑問点や理解が難しい点がある場合には積極的に発言することでより強い印象を得られ、より深い理解につながる。
- c ノートやプリントなど、授業毎の課題はきちんと行い、できれば自らすすんで教材に書き込みすれば、後の復習において有効に活用できる。
- d 板書や発問に対する応答を積極的にすることは、思考・意識が常に学ぼうとする状態となるので私語や居眠りを防ぐ意味でも望ましい。

② 家庭における学習

- a 授業の日は、その日のうちに復習することで、授業の理解を保つことができる。
- b できれば定期的に復習する時間を持つ。短時間でも復習することで知識の定着がすすむ。

③ 定期考査に向けての学習

- a 定期考査前の学習は、ただ読むだけよりも、自分で何度も書き込むことで知識が定着する。
- b 自ら特徴的な分類を行うことで、より理解が進む。
- c 疑問点や難しい点は、積極的に教師に質問する。(放課後等も活用する)
- d 学習方法の改善が困難な場合は、教科担当に相談すること。

④ 特進クラスについて

- a 特進クラスでは、より深い知識や理解を要求するため、単元毎に確認テストや宿題等を課す。
- b 定期考査においても、他のクラスより難度の高い問題を解かせ、受験時に備える。その際の評価は、他のクラスとの較差を考慮し、不利にならないように配慮する。

5. その他：履修上の留意点等

①履修・修得における注意点

- a 欠課時数が総時数(2単位×35週=70時間)の3分の1(24時間)を超えた生徒は履修を認めない。
- b 時数が不足している生徒のうち、正当な理由がある生徒については、原則として2時間については補充を行う。
- c 学年末の評定が「2」以上の生徒は、単位を修得したものと認める。

②授業における注意点

- a 教科書や資料集、その他授業に必要な教材は、必ず持参して授業を受けること。
- b 私語や居眠り等、怠惰な態度や授業を妨害する行為は行わないこと。
- c 提出物や課題は、期限をきちんと守り提出すること。